

解題

市川本太郎旧蔵資料（1）

長野市立博物館が、平成十三年四月十八日に、長野市に在住の市川千江子氏より寄贈をうけた資料群である。総計で図書が六三一件、掛軸ほかの美術品類が二万一七四一点とあるが実数はそれを上回るものと想定される。

長野市立博物館では、平成二十一年度に緊急雇用対策事業を活用し、資料の整理を進めてきた。資料整理の対象として、本資料群を重点的に扱った。

さて、この資料群は、信州大学教育学部でなかく教鞭を取られていた、故市川本太郎氏が個人で収集した資料群である。この資料群の性格を把握するためには、市川本太郎氏の来歴を述べる必要がある。この略歴については、市川本太郎著『孟子之総合的研究』（市川先生記念会発行 一九七四年）による。

市川本太郎氏は長野県生まれ。大正十一年三月長野県師範学校本科第一部を卒業。翌月には諏訪郡岡谷小学校教導となる。昭和九年三月に東京理科大学漢学科卒業。翌年には東京府立工芸学校教諭に着任する。昭和十四年に北海道札幌師範学校教諭、昭和十五年長野県師範学校教諭となる。昭和二十一年に文武教官長野師範学校教授となる。昭和二十五年に信州大学教授兼長野師範学校教授。その後、昭和三十三年三月に停年により信州大学教授を退職。昭和四十一年に国士舘大学文学部教授となる。

主要著作として、『理論的倫理学』（昭林堂書店 一九三五年）、『実践的倫理学』（昭林堂書店 一九三六年）、『忠経衍義』（東洋学術研究所 一九三八年）、『漢字学概論』（明治書院 一九六二年）、漢詩概論（敬文社書店 一九六三年）、『原始儒教の道徳思想』（敬文堂書店 一九六七年）、『漢詩の作り方と資料』（東洋学術研究所 一九七三年）などである。

さて、本資料を一瞥すると、市川本太郎氏の大学教育や私的な時間において収集された資料の多いことに気付く。殊に、本目録に掲載した大量の図書類や古典籍類は市川氏の大学における教育活動や、個人の研究活動を知る上で重要な内容となっている。また、本目録には掲載を見送ったものに、市川氏の家族旅行の日記、個人的に収集したマッチ箱なども含まれ、本資料の理解には市川氏自身の理解が必要である。

なお、これらの資料を長野市立博物館としてどう活かしていくべきか、大きな課題であることを付言しておきたい。

市川氏収集資料の概要（図書）

種 別	件数	区 分	摘 要
字典	21		辞源・四書索引・五經索引
辞典	8	中国	中国人名大辞典
事典・辞典	29		大日本地名辞典・大言海
辞典索引書目	9		支那地名辞典
漢文学史	23		支那文学史
歴史	2	中国	中国共和史
思想	14	中国	道家の思想とその展開
支那哲学	40		経学史・支那哲学史・儒学史
中国文学	34		魯迅の印象・詩経
水戸学	34		水戸学の新研究
中江藤樹	4		藤樹全集
二宮尊徳	18		二宮尊徳の思想と業績
聖徳太子研究書	34		聖徳太子伝要解
孔子研究書	23		論語と孔子の思想
山鹿素行	6		素行全集
廣瀬淡窓	2		淡窓全集
王陽明研究書	23		王陽明の哲学
漢文書	2		漢文叢書
国文学	17		国文学註釈全書
全集・叢書類	131		象山全集・故事類苑・群書類従
支那出版叢書・全集	17		皇清経解・二十五史
経書	36		十三経類語・崇孟の鉛印・詩経の鉛印
史書	7		文史通義
歴史書	37	中国	漢書・史記・魏書・宋史
諸子類	6		荀子集解・韓非子集解
集類	5		楚辞・三體詩
子書・経書	12		四書講義大学・論語講座
文字学	11		文字の研究・古韻研究
地形図	21	5万分の1	草津・御嶽山
地形図	7	20万分の1	富山・高山
合計	631		